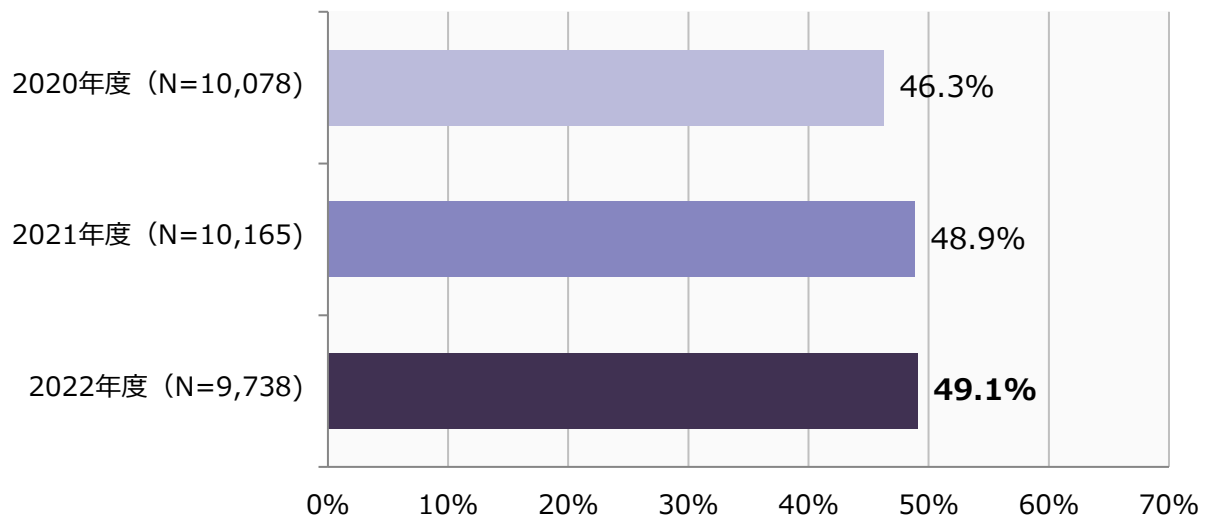


## リハビリテーション介入率（実施率）

全国的に急性期の基幹病院でのリハビリ介入率は高くない現状（平均16.7%）ですが、当院では40%前後で推移しています。今後も平均在院日数は低下が予想され、より早期からリハビリ介入し、ADL低下および廃用の予防が、スムーズな転院、退院に向けて重要となります。

急性期病院ではリハビリを実施する前に転院、退院となるケースも多く、早期介入ができていないことを示す指標としては介入率が適していると考えます。



### 当院値の定義・算出方法

分子：リハビリを実施した入院患者数  
分母：全入院患者数

$$\frac{\text{分子}}{\text{分母}} \times 100 (\%)$$

※グラフ中のN数は分母の値を示している。

### 結果の考察および今後の取り組み

リハビリテーションの早期介入はその後の機能回復、ADL改善、廃用予防にも重要とされています。当院のような急性期病院では平均在院日数が短く、リハビリ未介入のまま退院、転院になるケースが多くあります。リハビリテーション介入率はより早期に多くの患者様の身体機能改善に向けたリハビリが開始されているかの指標となります。この指標を上げることで通常リハビリが想定される疾患以外の疾患に対しても必要に応じて早期からのリハビリが提供できていることにつながると考えています。新型コロナウイルス感染拡大により1年間にリハビリを施行した入院患者数は減少の結果となりましたが、回診や病棟カンファレンス時に、リハビリの必要性があり医師からの指示が漏れている患者がいらないかの確認を行うことで、介入率は前年度比0.2%微増の結果が得られました。

文責：リハビリテーション室室長  
野田 彰